第13回 尾崎＝ゾルゲ研究会



日 程　2026年11月7日（土）
14:00～18:00

会 場　拓殖大学茗荷谷キャンパス
国際教育会館 F301＋ZOOM

報告概要

① 加藤哲郎（一橋大学名誉教授、尾崎＝ゾルゲ研究会共同代表）

AI時代の尾崎＝ゾルゲ研究
―鬼頭銀一とジョー小出の資料発掘・フィールドワークでの探求体験を踏まえて―

加藤報告では、「AI時代の尾崎＝ゾルゲ研究」を、メディアに溢れる生成AI論とは差異化しつつ、具体的に副題を「鬼頭銀一とジョー小出の資料発掘・フォールドワークでの探求体験を踏まえて」として、加藤哲郎著『ゾルゲ事件――覆された神話』（平凡社新書、2014年）で論じた、上海における尾崎秀実へのゾルゲの紹介者鬼頭銀一及び宮城与徳訪日後の野坂参三の米国西海岸での活動助手ジョー小出（本名・鵜飼宣道）について、①問題の発見、②公文書館資料発掘、③遺族探索、④関係者インタビュー、⑤現地調査・フィールドワークの体験を踏まえ、そうしたオーソドックスな探求方法と、今日の生成AIによる問題解明の共通点・相違点を浮き彫りにしながら、若い研究者のみなさんに研究継承を問題提起をしていきます。



討論概要

② 名越健郎（拓殖大学元教授、尾崎＝ゾルゲ研究会共同代表）

ロシア新刊『ゾルゲとの連絡者』をめぐって

また、加藤報告を受け、討論として、現在のロシアにおける尾崎＝ゾルゲ研究の状況を名越発言で補完してもらう予定です。アレクセーエフさんを含めた三人の研究者により、ロシアで新たに出版された『ゾルゲとの連絡者』は、ゾルゲ事件関係者の人物事典の様相を呈しておりますが、リヒヤルト・ゾルゲをその活動に関わる膨大な人脈ネットワークの核に据えて、具体的なつながり、出会い、勧誘、信頼、失敗、裏切りそして真の勇気からなる生き生きとした複雑な世界の広がりを垣間見るものです。生成AIの時代にこうしたロシアでの実証研究のあり方をどのように考えていくのか、加藤報告の問題提起との対照的な様相を議論することになります。

司　会

③ 鈴木規夫（愛知大学教授、尾崎＝ゾルゲ研究会事務局長）

お申し込み先

下記のフォームまたは二次元コードより
お申し込みください。

申込フォーム
https://forms.gle/MVUyU2aDxSIBqkM48

URL　https://sites.google.com/view/ozaki-sorge-study/ホーム

お問い合わせ：尾崎＝ゾルゲ研究会事務局
20221107os@gmail.com